

看護学科における初年次教育の効果探索

－入学後4ヶ月の自己教育力、自己管理能力を中心に－

Effects of first year education in nursing sciences, with a focus on self-education and self-management skills in the first four months of school

留田由美*, 今井七重*, 足立はるゑ*, 田中 耕*, 酒井千知*, 林恵美子*
榎本敬子*, 小島範子*, 小嶋健仁*, 浅野恵美*, 馬場美穂*, 山田静子*

Yumi TOMEDA, Nanae IMAI, Harue ADACHI, Tagayasu TANAKA,
Kazunori SAKAI, Emiko HAYASHI, Keiko ENOMOTO, Noriko KOJIMA,
Takehito KOJIMA, Emi ASANO, Miho BABA, Shizuko YAMADA

抄録：2014年度看護学科入学生に実施した前期初年次教育（看護学基礎演習Ⅰ）の効果自己教育力、自己管理能力の側面から探索した。入学直後と4ヶ月後の比較では、自己教育力の4因子のうち、「Ⅲ. 学習技能と基盤」についての項目は上昇したが、「Ⅰ. 成長発達への志向」は下降していた。自己管理能力においては変化がなかった。今回の調査は、入学後早い時期における学生の状況をみたものであり、大学という新しい環境への適応なども関連していることが推察される。今後、前期初年次教育の教材や指導方法について更に検討する必要性が示唆された。

キーワード：看護学生、初年次教育、自己教育力、自己管理能力

I. はじめに

今日、少子化の影響を受けて、大学入学者が5割を超え、入学の目的、学習習慣、学力、履修歴等の多様化により大学は様々な学生を受け入れなければならない状況になっている¹⁾。このような中で、高等学校から大学での学習への円滑な移行を図るために、新入生を対象に大学での学習のスキルや生活リズムの構築等の自律を中心とした「初年次教育」が注目されている。2007年に全国すべての国公立・私立大学を対象に行われた調査によると97%の大学で初年次教育が導入されているという²⁾。

2009年「大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会」の答申では「すべての看護師等に主体的に考え行動することができ、保健・医療・福祉等のあらゆる場において看護ケアを提供できる能力を生涯を通じて獲得していくこと」を求めている。この事は、本学に限らず、看護系の学生には大学において、主体的、自律的に学びを深めていく能力を培う必要性を示唆している。それには、学生自自身が目標を持ち、主体的に取り組むことが必要である。それらを反映する能力として、主体的に学ぶ意思、態度などの「自己教育力」や自らの行

動を統制し、目標達成をめざす「自己管理能力」といった概念がある。学生が、在学中にこれらの能力を高めることが出来れば自律した学習者となり得ると考える。

看護大学生を対象とした初年次教育の先行研究では、教育内容の検討および能力習得度評価に関する報告^{3), 4), 5), 6), 7), 8)}、学習形態（問題解決型学習）の評価に関する報告⁹⁾、ライフスタイルと自己管理能力に関する報告¹⁰⁾がある。更に、本調査と関係が深い報告として初年次教育の効果指標に自己教育力と自己管理能力を用いた山口ら¹¹⁾の研究がある。しかしながら、山口ら¹¹⁾の調査は学生の入学1年後の成果を報告したものであり、その間の変化については言及されていない。著者らは学習の成果を高める為には中間における学習の習熟度を知り、授業改善に役立つ資料を得ることが必要であると考え、短期間の実態を知ることとした。そこで、今回、入学後4ヶ月（1単位終了時期）における前期初年次教育「看護学基礎演習Ⅰ（以後基礎ゼミⅠという）の1単位（半期）分の効果について、自己教育力および自己管理能力の側面から探索することとした。

II. 用語の定義

*看護リハビリテーション学部看護学科

1. 初年次教育とは：高校からの円滑な移行を図り、学習および人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を"成功"させるべく、主に大学新生を対象に総合的につくられた教育プログラムをいう(濱口：2006)¹⁾。
2. 自己教育力とは：梶田(1987)¹²⁾の定義「長期にわたり、自分で自分を教育していける力」を参考に、本研究では学生自身が自ら主体的に学ぶ力とする。
3. 自己管理能力：目的達成をめざし、自らの行動を統制・努力する能力をいう。

III. 研究方法

1. 研究対象：2014年度本学看護学科に入学した学生91名を対象とした。
2. 調査方法：記名式自記式調査票を入学後(4月)および1単位終了時(7月)に配布し集合調査を行った。成績には関係しないこと、現状の正確な記述を目的として、プライバシーは保護されること、調査への参加は自由であることなどを説明し調査を行った。
3. 前期「基礎ゼミⅠ」の指導体制と内容：基礎ゼミⅠは、2単位60時間であり、そのうち前期(4月～7月)30時間を研究対象期間とした。指導体制は学生91名を10ゼミにわけ、1教員9～10名の学生を担当した。実際の運営に際しては指導内容に対する指導案を作成し、週1回の検討会による共通認識のもとに指導を進めた。
前期30時間の内容は「図書館ガイダンス」、「ノートテイキング」、「話す、聞く、要約の仕方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーション方法」などの説明と演習、グループワークであった。参考図書として「知へのステップ」くろしお出版を使用した。
4. 調査内容：調査に際しては、対象の属性(年齢、性別、住居形態、一人暮らしの有無)、西村¹³⁾の自己教育力測定尺度(40項目)、高橋¹⁴⁾の自己管理能力測定尺度(10項目)、学生の反応として「1ヶ月および4ヶ月の振り返り」、「基礎ゼミ有用感」を調査した。
 - 1) 自己教育力測定尺度について：この尺度は「Ⅰ. 成長・発展への志向」、「Ⅱ. 自己の対象化と統制」、「Ⅲ. 学習の技能と基盤」、「Ⅳ. 自信・プライド・安定性」の4側面から構成されており、それぞれ10項目の低位項目からなっている。尺度は梶田¹⁴⁾が作成した自己教育力尺度に西村¹³⁾が10項目追加作成したうえで、信頼性・妥当性が検証されている。梶田の尺度開発では自己教育力を主体的、自立的に学習する技能や態度という考えのもとに総合的な能力として構造化され個人の成長に大きく影響す

ることが報告されていることから本尺度を用いた。質問項目に対しては、「とてもあてはまる：4」「どちらかといえばあてはまる：3」「どちらかといえばあてはまらない：2」「全くあてはまらない：1」の4件法で回答を求めた。

- 2) 自己管理能力測定尺度について：この尺度は自己を管理する認知的スキル10項目で構成されており、中学生、高校生、大学生、一般成人に適用した場合について信頼性が検証されている¹⁵⁾。質問項目に対しては「自己教育力」と同様に4件法で回答を求めた。
- 3) 「1ヶ月および4ヶ月の振り返り」について：振り返り項目の作成にあたっては、今回予定されている初年次教育の内容(時間管理、学習スキル、生活調整等)にそった自己評価項目を作成し、初年次教育担当者10名による検討を経て25項目を作成した。それを入学後1ヶ月と4ヶ月(1単位終了時期)に自己評価を求め、自己の課題および目標を意識化させる機会にした。自己評価は4件法とし、「よくできた：4」、「できた：3」、「あまりできなかった：2」、「できなかった：1」とした。
- 4) 「基礎ゼミ有用感」について：この調査では基礎ゼミⅠの前期1単位における学習内容について、学生自身にとってどの程度役立ったかを4件法で回答を求めた。「とても役立った：4」、「役だった：3」、「あまり役立たなかった：2」、「なくてもよかった：1」として集計した。加えて、基礎ゼミⅠに対する意見・希望の自由記述を求めた。

なお、上記1～4)の4件法による得点は得点が高いほど良好な状態を示す。

5. 分析方法

自己教育力、自己管理能力得点および1ヶ月および4ヶ月振り返り得点を集計し、逆転項目は項目の数字を逆転して数量化した。分析はSPSSVer.17を用い、各測定尺度の信頼係数クロンバック α 係数を算出し、尺度の信頼性を確認した。算出した91名の自己教育力・自己管理能力の中央値と各側面の得点を入学直後の4月と7月について比較した。

なお、得点の差を分かりやすくするために、中央値を補完する意味で平均値を併せて示した。差の検定にはWilcoxonの順位検定を行い5%未満を統計的に有意とした。

また、基礎ゼミⅠの効果について検討するために1ヶ月および4ヶ月の振り返り得点と自己教育力および自己管理能力との関連についてSpearmanの相関係数を求めた。「基礎ゼミ有用感」は有用率を算出し、分析の補完資料とした。

6. 倫理的配慮

倫理的配慮として研究の趣旨とプライバシーの保護、調査への協力は自由意思であり、途中中断も可能であること等を書面をもって説明した。また、本研究は、中部学院大学倫理委員会の承認 (E14-0003) を得て実施した。

IV. 結果

1. 対象者の基本属性

調査票の回収数は4月初回授業時91名、7月最終授業時90名であった。そのうち、欠損値がない90名 (98.9%) を分析対象とした。性別は、男性18名 (20%)、女性72名 (80%) であった。年齢は、18歳~26歳、平均18.3歳であった。

2. 自己教育力総合得点および項目ごとの比較

(表1)

自己教育力を構成する40項目全体の内的整合性を示すクロンバック α 係数は0.88であった。

4月と7月の自己教育力総合得点と因子別得点の比較では、有意に上昇した側面は「Ⅲ. 学習の技能と基盤 (p=0.001)」であった。一方、有意に低下した側面は、「Ⅰ. 成長発達への志向 (p=0.034)」であった。「Ⅱ. 自己の対象化と統制」および「Ⅳ. 自信・プライド・安定性」については、変化はなかった。

自己教育力得点項目ごとの4月と7月の比較では、有意に上昇した項目は、「2. 自分の調べたいことがあるときに図書館(室)を利用している (p=0.000)」の1項目のみであった。しかし、中央値は変化していなかったが平均値は上昇していた項目が3項目あり、「25.これから専門的な視覚や学位などをとりたい」「6.自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる」「34.わからないことがあると、すぐに人に聞く傾向がある(逆)」であった。

表1 自己教育力総合得点および項目ごとの比較

項目内容(逆:逆転項目)	4月		7月		P値	N=90
	中央値	平均値	中央値	平均値		
Ⅰ. 成長発達への志向						
1. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい	3.0	3.3	3.0	3.3	0.239	
5. 自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい	3.0	3.3	3.0	3.2	0.343	
9. たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい	3.0	3.1	3.0	3.0	0.357	
13. 自分でなければやれないことをやってみたい	3.0	3.2	3.0	3.1	0.319	
17. 自分がやり始めたことは、最後までやりとげたい	3.0	3.3	3.0	3.2	0.622	
21. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい	3.0	3.4	3.0	3.3	0.162	
25. これから専門的な資格や学位などを取りたい	4.0	3.8	4.0	3.6	0.014	*
29. いったい何のために勉強するのだろうか、といやになることがある(逆)	3.0	2.7	3.0	2.7	0.645	
33. ぼんやりと何も考えずに過ごしてしまうことが多い(逆)	2.0	2.1	2.0	2.1	0.354	
37. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う(逆)	2.0	2.4	2.0	2.3	0.799	
総合得点	31.0	30.3	30.0	29.8	0.034	*
Ⅱ. 自己の対象化と統制						
4. 自分の良くないところを自分で直すようにいつも心がけている	3.0	3.1	3.0	3.1	0.862	
8. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない	3.0	2.6	3.0	2.6	0.891	
12. 自分のよいところと悪いところがよくわかっている	3.0	3.0	3.0	3.0	0.847	
16. 他の人から欠点を指摘されると自分で考えてみようとする	3.0	3.1	3.0	3.1	1.000	
20. できるだけ自分を押さえて、他の人に合わせようとしている	3.0	2.7	3.0	2.7	0.872	
24. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	3.0	3.1	3.0	3.1	0.865	
28. 疲れているときには、何もしたくない(逆)	1.0	1.7	2.0	1.7	0.671	
32. テレビを見てしまっ、勉強がやれないことが多い(逆)	2.0	2.4	2.0	2.4	0.670	
36. ちょっといやなことがあると、すぐに不機嫌になる(逆)	3.0	2.8	3.0	2.8	0.739	
40. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする	3.0	2.9	3.0	2.8	0.151	
総合得点	27.0	27.2	27.0	27.2	0.513	
Ⅲ. 学習の技能と基盤						
2. 自分の調べたいことがあるときに図書館(室)を利用している	2.0	2.1	3.0	2.6	0.000	***
6. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる	3.0	2.6	3.0	2.8	0.006	**
10. 他の人の話を聞いたり本を読むとき、内容をふり返りまとめてみる習慣がある	2.0	2.4	2.0	2.3	0.218	
14. 考えを深めたり、ひろげたりするのに話し合いや討議を大切にしている	3.0	2.6	3.0	2.7	0.146	
18. 考えていることを筋道立てて書いたり、伝えたりできる	2.0	2.4	2.0	2.5	0.260	
22. たとえ話などをもちいて、人にわかりやすく、説明するのがにがてである(逆)	2.0	2.2	2.0	2.3	0.481	
26. 自己評価するときには、自分の目標にたどり着いている	3.0	2.7	3.0	2.7	0.655	
30. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある	2.0	2.3	2.0	2.4	0.296	
34. わからないことがあると、すぐ人に聞く傾向がある(逆)	2.0	2.0	2.0	2.2	0.016	*
38. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを調べる	2.5	2.5	2.0	2.5	0.471	
総合得点	24.0	23.9	25.0	25.0	0.001	***
Ⅳ. 自信・プライド・安定性						
3. 今のままの自分ではいけない、とおもうことがある(逆)	2.0	1.6	2.0	1.6	0.716	
7. 他の人にばかにされるのは、がまんできない	2.0	2.5	2.0	2.5	0.546	
11. とどき、自分自身がいやになる(逆)	2.0	2.0	2.0	2.0	0.544	
15. 何をやってもだめだと思ふ(逆)	3.0	2.9	3.0	2.8	0.168	
19. 自分のことをはずかしいと思うことがある(逆)	2.0	2.1	2.0	2.2	0.286	
23. 今の自分が幸福だと思ふ	3.0	3.2	3.0	3.2	0.857	
27. 自分のやることに自信を持っている方だと思ふ	2.0	2.5	3.0	2.5	0.984	
31. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい	2.0	2.3	2.0	2.4	0.407	
35. 今の自分に満足している	2.0	2.1	2.0	2.1	0.276	
39. 自分にもいろいろととりえがあると思ふ	3.0	2.7	3.0	2.7	0.532	
総合得点	24.0	23.8	24.0	23.8	0.989	

***p < .001 **p < .01 * < .05

Wilcoxonの符号付順位検定

3. 自己管理能力総得点及び項目ごとの比較 (表2)

自己管理能力総合得点及び項目ごとの比較では、有意に低下していた項目は、「4. 何かを実行するときには、自分なりの計画を立てる」であった。

4. 1ヶ月および4ヶ月の振り返り (表3)

今回独自に作成した振り返り 25 項目の信頼性を示すクロンバックの α 係数は 0.75 であり、基準値 0.7 を満

たしていた¹⁶⁾。入学後1ヶ月と4ヶ月の振り返り項目の比較では、有意に上昇した項目は、「8. 図書館をよく利用している (p=0.000)」および「19.汗ばむ程度の運動が週3回できている (p=0.005)」の2項目であった。

一方、有意に低下した項目は、「20. アルバイトは学生生活に無理のない程度にしている (p=0.002)」および「25. 大学生活は楽しいと思う (p=0.004)」の2項目であった。

表2 自己管理能力項目ごとの比較

項目内容	N=90						P値
	4月			7月			
	中央値	平均値	SD	中央値	平均値	SD	
1. 何かをするときには、十分に情報を収集する	3.0	2.7 (0.7)	3.0	2.6 (0.7)	0.218		
2. 難しいことをするときに、できないかもしれないと考えてし	2.0	2.2 (0.8)	2.0	2.2 (0.7)	0.966		
3. 失敗するときに、どこが悪かったかを反省しない (逆)	3.0	2.9 (0.7)	3.0	2.8 (0.7)	0.204		
4. 何かを実行するときには、自分なりの計画を立てる	3.0	2.9 (0.7)	3.0	2.7 (0.7)	0.024 *		
5. 失敗すると次回もだめだろうと考える (逆)	3.0	2.5 (0.8)	3.0	2.5 (0.8)	0.516		
6. 作業しやすい環境を作ることがにがてだ (逆)	3.0	2.7 (0.7)	3.0	2.7 (0.7)	0.876		
7. 困ったときには、すぐ何が問題かを明確にする	3.0	2.6 (0.7)	3.0	2.6 (0.6)	0.234		
8. しなくてはならないことよりも楽しいことを先にしてしまう	2.0	2.0 (0.8)	2.0	2.1 (0.8)	0.265		
9. 何をしたらよいかを考えないまま行動を開始してしまう (逆)	3.0	2.4 (0.7)	3.0	2.5 (0.8)	0.825		
10. 自分ならできると心の中で自分を励ます	3.0	2.9 (0.7)	3.0	2.9 (0.7)	0.594		
自己管理能力総合得点	26.0	25.8 (4.0)	25.5	25.6 (4.3)	0.448		

***p<.001 **p<.01 *<.05

Wilcoxonの符号付順位検定

表3 振り返り項目ごとの比較

項目内容	N=90						P値
	4月		7月		P値		
	中央値	平均値	中央値	平均値			
1. 「私のゴールシート」を達成できるように努力している	3.0	2.9	3.0	2.6	0.000 ***		
2. 週間スケジュール (時間管理) は大体守れている	3.0	2.7	3.0	2.5	0.009 **		
3. 自分で計画を立てて実行していこうと努力している	3.0	2.9	3.0	2.8	0.190		
4. 授業を欠席せず受講している	4.0	3.8	4.0	3.4	0.000 ***		
5. 授業は遅刻せず出席している	4.0	3.9	4.0	3.7	0.011 *		
6. 授業は集中して聴いている	3.0	3.3	3.0	3.2	0.344		
7. 毎日予習復習をしている	2.0	2.2	2.0	2.1	0.038		
8. 図書館をよく利用している	2.0	2.2	3.0	2.7	0.000		
9. 課題の提出期限は必ず守っている	4.0	3.7	4.0	3.6	0.344		
10. 授業の中でわからないことは必ず質問したりしている	3.0	2.7	3.0	2.6	0.369		
11. 講義ノートを工夫している (ノートテイキング)	3.0	3.0	3.0	2.9	0.051		
12. 事故や損失のない生活を送るために工夫をしている	3.0	3.2	3.0	3.3	0.686		
13. 心身の健康を保つため清潔 (身だしなみ) に気を付けている	3.0	3.4	4.0	3.5	0.336		
14. 心身の健康を保つため規則正しい食事をしている	3.0	3.1	3.0	2.9	0.025 **		
15. 心身の健康を保つため食事の内容 (栄養バランス) に気を付けている	3.0	3.0	3.0	2.7	0.004		
16. 心身の健康を保つため睡眠は十分にとれている	3.0	2.8	3.0	2.6	0.065		
17. 心身の健康を保つため就寝時間は12時を過ぎない	2.0	2.2	2.0	2.0	0.016 *		
18. サークル活動をしている	3.0	2.7	3.0	2.9	0.168		
19. 汗ばむ程度の運動が週3日はできている	2.0	1.8	2.0	2.1	0.005 **		
20. アルバイトは学生生活に無理のない程度にしている	4.0	3.4	3.0	3.1	0.002 **		
21. 友人を増やすために努力している	3.0	3.0	3.0	3.0	0.987		
22. 入学時より友達が増えている	4.0	3.7	4.0	3.6	0.206		
23. よりよい人間関係を築こうと常に心掛けている	4.0	3.5	3.0	3.4	0.449		
24. 基礎ゼミを受けてからセルフマネジメントに対する関心が高くなった	3.0	3.0	3.0	2.8	0.008 **		
25. 大学生活は楽しいと思う	4.0	3.5	3.0	3.2	0.004 **		

***p<.001 **p<.01 *<.05

Wilcoxonの符号付順位検定

5. 自己教育力および自己管理能力と振り返り項目の関連

今回実施した基礎ゼミの効果を探るために、入学後4ヶ月の自己教育力および自己管理能力と振り返り項目との関連をみた。

1) 自己教育力と振り返り項目の関連 (表4)

振り返り項目25項目中、15項目において自己教育力と有意な弱い正の相関がみられた。また、自己教育力合計得点と振り返り項目ごとの相関では、以下の13項目に弱い正の相関がみられた、「1. 私のゴールシートを達成できるように努力している」、「2. 週間スケジュール(時間管理)は大体守れている」、「3. 自分で計画を立てて実行していこうと努力している」、「6. 授業は集中して聴いている」、「7. 毎日予習復習している」、「8. 図書館をよく利用している」、「10. 授業の中でわからないことは必ず質問したりしている」、「11. 講義ノートを工夫している(ノートテイキング)」、「12. 事故や損失のない生活を送るために工夫をしている」、「14. 心身の健康を保つため規則正しい食事をしている」、「15. 心身の健康を保つため食事の内容(栄養バランス)に気を付けている」、「19. 汗ばむ程度の運動が週3日はできている」、「24. 基礎ゼミを受けてからセルフマネジメントに対する関心が高くなった」。

2) 自己管理能力と振り返り項目の関連 (表5)

振り返り項目25項目中、23項目において自己管理能力と有意な正の相関がみられた。また、自己管理能力合計得点と振り返り項目ごとの相関では、以下の13項目に弱い正の相関がみられた「1. 私のゴールシートを達成できるように努力している」、「2. 週間スケジュール(時間管理)は大体守れている」、「3. 自分で計画を立てて実行していこうと努力している」、「6. 授業は集中して聴いている」、「7. 毎日予習復習している」、「8. 図書館をよく利用している」、「10. 授業の中でわからないことは必ず質問したりしている」、「11. 講義ノートを工夫している(ノートテイキング)」、「12. 事故や損失のない生活を送るために工夫をしている」、「14. 心身の健康を保つため規則正しい食事をしている」、「15. 心身の健康を保つため食事の内容(栄養バランス)に気を付けている」、「19. 汗ばむ程度の運動が週3日はできている」、「24. 基礎ゼミを受けてからセルフマネジメントに対する関心が高くなった」。

表4 自己教育力と振り返り項目別相関

項目	N=90				自己教育力合計
	I. 成長発達への志向	II. 自己の対象化と統制	III. 学習の技能と基盤	IV. 自信・プライド安定性	
振り返り1	.247*	.191	.266*	.260*	.364**
振り返り2	.075	.294**	.261*	.070	.272**
振り返り3	.194	.264*	.200	.113	.296**
振り返り4	-.020	-.049	-.020	-.002	-.015
振り返り5	.043	.033	.009	.060	.048
振り返り6	.143	.310**	.252*	-.033	.255*
振り返り7	.207	.392**	.445**	.152	.433**
振り返り8	.052	.117	.534**	-.061	.263*
振り返り9	.260*	.042	-.040	.049	.112
振り返り10	.137	.294**	.482**	.122	.400**
振り返り11	.229*	.280**	.366**	.193	.426**
振り返り12	.208*	.174	.301**	.088	.302**
振り返り13	.147	.025	.122	.052	.157
振り返り14	.170	.174	.110	.142	.236*
振り返り15	.151	.135	.224*	.081	.238*
振り返り16	-.177	-.077	-.036	.116	-.060
振り返り17	-.280**	-.076	.116	.001	-.071
振り返り18	.043	.121	.124	-.062	.105
振り返り19	.096	.300**	.235*	.144	.256*
振り返り20	.057	.023	.094	-.075	.095
振り返り21	.041	.039	.109	-.015	.092
振り返り22	.146	.040	.013	.136	.115
振り返り23	.082	.091	.070	.091	.149
振り返り24	.201	.267*	.230*	.255*	.398**
振り返り25	.046	.098	.009	.179	.112

※塗りつぶしは相関係数が0.2以上ある項目

Spearmanの順位相関係数

6. 自己教育力と自己管理能力の関連 (表6)

自己教育力と自己管理能力の関連では、4月と7月におけるSpearmanの相関係数がそれぞれ、0.792と0.636であり、有意な強い正の相関がみられた。

7. 基礎ゼミI有用感 (表7)

4月から実施した基礎ゼミIにおける講義および演習で実施した8項目について、どの程度役立ったかについて回答を求めた。その結果、各項目において「非常によかった」および「役立った」と答えた学生の割合が8割を超えた項目は、高い順に「5. ライティング」73名(90.2%)、「2. ノートのとり方」71名(87.7%)、「3. リーディング」71名(87.6%)、「6. ビブリオバトル体験」70名(86.4%)、「7. ビブリオ発表会」69名(82.7%)「4. より深いリーディング」68名(81.4%)、の6項目であった。一方、8割未満であった項目は、低い順に「1. セルフマネジメント」56名(69.1%)、「8. 振り返りシート」63名(77.7%)であった。

表5 自己管理能力と振り返り項目の相関

項目	自己管理能力										自己管理能力合計
	自己管理1	自己管理2	自己管理3	自己管理4	自己管理5	自己管理6	自己管理7	自己管理8	自己管理9	自己管理10	
振り返り1	.317**	.267*	.281**	.235*	.310**	.251*	.231*	.047	.043	.208	.416**
振り返り2	.119	.013	.250*	.167	.192	-.007	.304**	.155	.177	-.023	.305**
振り返り3	.405**	.226*	.223*	.364**	.218*	.042	.355**	.099	.235*	-.007	.386**
振り返り4	-.140	-.143	-.149	.129	.038	-.254*	.088	.055	-.086	.144	.007
振り返り5	-.180	-.089	-.204	-.073	.066	-.094	-.034	.091	-.115	.305**	-.048
振り返り6	.234*	.121	.155	.155	.129	.112	.172	.172	.262*	.008	.262*
振り返り7	.296**	.145	.301**	.239*	.292**	.264*	.300**	.220*	.151	.059	.459**
振り返り8	.145	.159	.237*	.208*	.052	.208*	.101	.115	-.008	-.014	.242*
振り返り9	.121	.003	.004	.115	-.003	.047	.062	.096	.062	.157	.102
振り返り10	.275**	.024	.275**	.245*	.140	.248*	.197	.088	.085	.143	.342**
振り返り11	.036	.086	.254*	.272**	.172	.353**	.052	.243*	.089	.181	.321**
振り返り12	.295**	.098	.147	.084	.256*	.152	.131	.089	.253*	.114	.316**
振り返り13	.061	.044	.079	.288**	.087	.180	.030	-.018	-.105	.084	.136
振り返り14	.224*	.260*	.037	.118	.217*	.159	.097	.001	.151	.116	.225*
振り返り15	.220*	.137	.144	.154	.174	.263*	.167	.094	.187	.184	.281**
振り返り16	.044	.240*	.105	-.072	.197	-.058	-.015	-.052	.109	.008	.122
振り返り17	-.055	.241*	-.018	-.040	.024	-.078	-.059	.058	.088	-.153	.057
振り返り18	.014	.003	.268*	.025	-.039	.064	-.009	.021	-.045	-.117	.058
振り返り19	.300**	.038	.190	.113	.123	.229*	.225*	.178	.103	.069	.263*
振り返り20	.216	.092	.126	-.048	.200	.179	.037	-.102	.175	-.135	.123
振り返り21	-.028	.057	-.086	.175	-.036	.233*	-.023	-.161	-.045	.095	.073
振り返り22	-.018	.207	.040	.122	.041	.233*	.042	-.022	.012	.061	.160
振り返り23	.108	.152	.144	.151	.115	.283**	.057	.003	-.059	.069	.202
振り返り24	.176	.125	.181	.258*	.305**	.221*	.384**	-.041	.140	.176	.324**
振り返り25	-.001	.149	.025	-.038	.071	.103	-.012	-.152	-.036	.187	.086

※塗りつぶしは相関係数が0.2以上ある項目

Spearmanの順位相関係数

表6 自己教育力と自己管理能力の相関

自己管理能力	自己教育力	
	4月	7月
	.792**	.636**

Spearmanの順位相関係数

表7 基礎ゼミ有用感

項目	1.セルフマネジメント		2.ノートのとり方		3.リーディング		4.より深いリーディング		5.ライティング		6.ピブリオバトル体験		7.ピブリオ発表会		8.振り返りシート	
	回数	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)	度数(人) 割合(%)		
非常によかった	6	7.4	22	27.2	11	13.6	13	16.0	22	27.2	11	13.6	14	17.3	9	11.1
役立った	50	61.7	49	60.5	60	74.1	53	65.4	51	63.0	59	72.8	53	65.4	54	66.7
あまり役立たなかった	21	25.9	8	9.9	10	12.3	15	18.5	6	7.4	9	11.1	8	9.9	15	18.5
無くても良い	4	4.9	2	2.5	0	0.0	0	0.0	2	2.5	2	2.5	1	1.2	2	2.5
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	6.2	1	1.2

V. 考察

本調査では本年度入学した学生に行われた前期初年次教育において、自己教育力と自己管理能力をどの程度高めることが可能であるかを明らかにすることとした。

1. 自己教育力について

基礎ゼミにおける4月と7月の学生の自己教育力の因子別変化で、有意に上昇した因子は「Ⅲ.学習技能と基盤」であり、山口ら¹¹⁾が看護学科1年生に実施した同尺度による調査結果と一致していた。しかし、山口ら¹¹⁾の調査結果では、有意に低下した項目はみられなかったが、本研究では、「Ⅰ.成長発達への志向」が有意に低下していた。

「Ⅲ.学習技能と基盤」が上昇したのは、基礎ゼミⅠにおけるレポートや文献検索方法などの演習、授業後の課題等の遂行による影響があるものと考え。このことは、ゼミの有用性においても高い支持が得られていることから裏付けられる。しかしながら、前期の専門科目の授業では課題等も多く、基礎ゼミⅠ以外の他の教科目からの課題等の刺激の関与も当然あるものと考え。

一方、「Ⅰ.成長発達への志向」が低下していたことは意外であったが、これには基礎ゼミⅠにおける教材や指導方法、新入生に見られがちな不安やストレスの影響が考えられる。入学後4ヶ月における基礎ゼミⅠの内容は時間管理、学習スキルで占められており、教材は看護学とは関係の薄い文化系の長文要約、レポートの書き方等であった。これらは、看護師および保健師の資格取得

に対する意欲向上には直接繋がりにくい内容であった可能性が高い。また、山口ら¹⁷⁾は、看護系大学1年生が認知するストレスは「学業への不安」「人間関係」「未熟な自己調整」「生活環境の変化」と述べている。本学科の学生も新しい環境への戸惑い等からこれらのストレスが多少なりとも関連していると思われる。振り返り項目の「大学生活は楽しい」が有意に低下していたことから伺える。したがって、基礎ゼミ I の教材や指導について学生の興味関心を高めるための工夫、看護学の履修科目との関連等を検討し、さらには学生一人ひとりの適応状況にも注意していくことが必要である。また、学生の多くは看護職になりたいという希望と夢を抱いて入学してきたにもかかわらず、意欲低下の傾向が見られることについては、今後、その要因を明らかにしていくことが必要である。

「II. 自己の対象化と統制」「IV. 自信・プライド・安定性」の側面の得点がほぼ変化がなかったことは、自己教育力の概念が生涯教育につながるものであり、河野¹⁸⁾によれば「自己教育力というのは自己学習、自己形成、自己啓発などの概念を総合したもの」としており、入学後短期間で変化するものではないことから今後の成長を見ていく必要がある。

多くの項目に差がなかったことは、短期間で教育効果が得られるものと、長期間必要である項目の差が現れているものと考えられる。

2. 自己管理能力

基礎ゼミ I における4月と7月の自己管理能力総合得点及び項目ごとの中央値に変化はみられなかった。この結果は、山口ら¹¹⁾が看護系大学1年生に実施した同尺度を使用した調査結果の「2. 難しいことをするとき、できないかもしれないと考えてしまう(逆)」「8. しなくてはならないことよりも楽しいことを先に優先してしまう(逆)」が有意に上昇していたという結果とは異なるものであった。この結果と関連することとして入学後の振り返りに関して、目標・時間管理など自己管理に関する項目が有意に低下していることがあげられる。この背景には山口ら¹¹⁾の調査が1年後の結果であり、中間での評価に比べて学生の成長度の違いによる差が考えられる。また、前述の自己管理能力の1項目が有意に低下していたことは、振り返り項目と同様に今後さらに検討が必要である。中間と1年後の得点において差が見られなかった内容については、何が関連しているのか、例えば、大学生活への適応上の問題や学習習慣との関連等、その要因を更に検討していく必要がある。新入生にとってこのような時間管理・学習習慣を身につけることが難しいことが伺える。冬木ら¹⁹⁾が実施した、看護専門学校での1年生を対象とした調査でも報告されている。

しかしながら、基礎ゼミ I では、初回の講義にて、自己管理能力をつけることを目標とし、各自年間目標

(『私のゴールシート』)や週間スケジュールを立案し、教員より自宅で目に付くところに貼り、常に意識するようにと指導している。それにもかかわらず、大学生生活の舵取りともいえる「計画性、時間管理」に関するセルフマネジメントの振り返りでは有用性を感じた学生は68.4%と最も低かった。その理由を考えてみると、基礎ゼミ I における指導方法が関連している可能性がある。基礎ゼミ I では中間評価として1ヶ月、3ヶ月の2回、目標や週間スケジュールの自己評価の機会をもったが、その方法は計画性の必要性や行動を促したり、スケジュール表を提出するといったことであり、教員によってもバラツキが見られた。今回の結果から、今後は学生が「計画性」を行動として実施するようなくみづくりや、学生個々の情報交換等、効果的な方法を検討する余地があると考えられる。

一方、自己管理能力と自己教育力に有意な強い正の相関関係が見られたことで、2つの能力が相互に関連していることが示唆された。

3. 自己教育力および自己管理能力と振り返り項目ごとの関連

今回のゼミ活動における自己管理能力および自己教育力と振り返り項目ごとの関連においても有意な相関関係が示された。したがって、今後のゼミ活動において、自己の目標設定を行い遂行能力の強化、授業の予習・復習、積極的な授業参加およびノートテイキングなどの学習姿勢の強化、安全、清潔、食事および運動などの規則正しい生活習慣の確立に向けての指導を行うことで自己教育力および自己管理能力が高められる可能性が示唆された。

以上、本調査が基礎ゼミ I、2単位のうちの1単位時点での学生の状況としては、将来に対する意欲の減退や自己管理能力の低下など、本学科における入学後間もない学生の実態が浮き彫りにされたことは今後の指導に有用な資料となった。高校から大学への移行上の問題及び学科の特徴としての1年次から専門科目系の科目履修があることに着目し、今後の指導に活かすことが必要である。

今後の本研究の課題として、本研究は、学生生活の初期に限定された極めて短期間についての研究であり、学生が自己教育力、自己管理能力を高め、充実した大学生活を過ごすには継続した指導が必要である。今後、入学1年後の変化を明らかにしていきたい。

VI. 結論

2014年度入学生に実施した前期初年次教育「看護学基礎演習 I」の効果自己教育力、自己管理能力の側面から分析した結果以下のことが明らかになった。

1. 自己教育力総合得点と因子別総合得点の比較にて、有意に上昇した側面は「Ⅲ. 学習の技能と基盤」であった。一方、有意に低下した側面は、「Ⅰ. 成長発達への志向」であった。
2. 自己教育力得点項目ごとの4月と7月の比較では、有意に上昇した項目は、「2. 自分の調べたいことがあるときに図書館(室)を利用している」の1項目のみであった。
3. 自己管理能力総合得点及び項目ごとの比較では、4月と7月とでは変化は見られなかった。
4. 自己教育力と自己管理能力の得点間には正の強い相関関係が示されたことから、両者は、相互に関連している可能性が示唆された。

以上より、基礎ゼミⅠの形成評価(入学後4ヶ月)における課題は自己管理能力と将来に対する意欲向上に資する対策である。なお、上記の結果は初年次教育のみによる効果ではなく、他教科目の講義や演習等との集積的な効果であるといえる。

引用文献

- 1) 濱口篤, 川嶋太津夫編著(2006): 初年次教育, 丸善株式会社, p3
- 2) 山田礼子, 杉谷裕美子(2008): 初年次教育の「今」を考えるー2001年調査と2007年調査の比較を手がかりにー, 大学教育学会誌, 30(2), 83-87
- 3) 2009年文部科学省中央教育審議会答
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/
- 4) 岡崎美智子, 下條三和, 濱寄真由美ら(2010): 諸年次教育における「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」のあり方, 国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要, 6, 49-59
- 5) 橋本佳美, 弓削美鈴, 田中高政ら(2010): 看護大学生への初年次教育プログラムの検討 導入基礎演習からの一考察, 佐久大学看護研究雑誌, 2(1), 29-39
- 6) 鈴木久美, 西村明子, 工藤里香ら(2013): 看護学部における初年次教育の導入と成果, 兵庫医療大学紀要, 1(2), 43-53
- 7) 前田由紀子, 唐崎愛子, 石田佳奈子ら(2012): 看護学科における初年次教育・二年時教育の成果と課題, 西南女学院紀要, 16, 15-24,
- 8) 澤田忠幸, 鳥居順子, 草蘇康城ら(2010): 愛媛県立医療技術大学における初年次教育の取り組みと課題, 愛媛県立医療技術大学紀要, 7(1), 29-35
- 9) 石井美紀代, 鹿嶋聡子, 布鼻原明子ら(2012): 初年次教育における問題解決学習の効果, 西南女学院大学紀要, 16, 25-34
- 10) 杉田豊子, 城憲秀, 牧野典子ら(2012): 看護大学生のライフスタイルと自己管理能力との関連ー初年次教育前後の比較と課題, 中部大学生命健康科学研究紀要, 8, 80-90
- 11) 山口直己, 堀井直子, 牧野典子ら(2011): 保健看護学科初年次教育の効果と課題: 自己教育力および自己管理能力の側面から, 中部大学教育研究, 11, 95-101
- 12) 梶田叡一(1987): 自己教育への教育, 明治図書, p28
- 13) 西村千代子, 奥野茂代, 小林洋子ら(1995): 看護婦の自己教育力ー自己教育力測定尺度の検討ー, 日本赤十字社幹部看護婦研修所紀要, 11, 22-39
- 14) 高橋浩之, 中村正子, 木下朋子ら(2000): 自己管理スキル尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, 日本公衆衛生学会誌, 47(11), 907-914
- 15) 高橋浩之ほか(2004): 年齢段階による自己管理スキルの差に関する検討, 日本健康教育学会, 12(2)
- 16) 小田利勝(2007): 統計解析入門, プレアデス出版, P22
- 17) 山口直己, 足立はるゑ, 城憲秀ら(2012): 高校から大学への移行に関する円滑な適応を目指してー1年生が認知するストレス内容とコーピングー, 中部大学生命健康科学研究紀要, (19), 35-40
- 18) 河野重男編(1987): 自己教育力を育てる, ぎょうせい, P3,33
- 19) 冬木佳代子, 峰村淳子(2013): 看護専門学校における、新入生に対する準備教育の検討ー学生と専任教員への意識調査よりー, 東京医科大学看護専門学校紀要, 23, 15-19